

(甲斐市立竜王西小) 学校 学校関係者評価書

令和5年2月8日(水)

(甲斐市立竜王西小学校) 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和5年2月2日(木)午後3時～

会場：甲斐市立竜王西小学校学習室

参加者：(学校関係者評価委員)

学校評議員 高相 治夫、植松 章子、伊藤 浩

(学校側)

校長 立川 武、教頭 飯塚 正規

教務主任 丹下 博喜

I 学校側から提案された内容

- ・教職員自己評価結果と考察(保護者アンケートも含む)
- ・児童アンケートの結果と考察
- ・創甲斐教育の数値目標についての結果と考察
- ・課題改善に向けた今後の取組

II 協議された主な内容

- ・地域との連携による活動について
- ・学習しやすい環境整備について
- ・家庭環境と児童の生活習慣について

<学校関係者評価書>

I 全体評価

○全ての項目において A(とてもそう思う)または B(そう思う)が最頻値であり、ABを合わせた回答は、Ⅲ4を除きすべて9割を超えていたことから学教教育目標の具現化に向けて、やるべき教育活動を、まじめに一生懸命に、「チーム竜王西小」として行っている。

○児童アンケートから、各質問や学校生活全般・人間関係に関わる質問への回答では、肯定的な回答(AB)が多くの割合を占めている。具体的なものとしては、肯定的な回答(AB)が、No.1「学校は楽しいですか」89.1%(昨年+1.4)、No.23「だれとでもあいさつしていますか」89.1%(昨年比+1.7)である。それぞれの項目で多くの児童は、昨年度より楽しい学校生活を送っている様子がわかる。

II 特徴

○教職員自己評価では、学校経営・運営に関して肯定的評価(A・B)が100%である。残りの4「あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。」以外すべてが、90%以上の肯定的評価(A・B)を得ており、概ね達成できている。このことから、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善に取り組んでいることがわかる。

○保護者アンケートでは、9「お子さんは授業がわかっていると思う。」という設問に、肯定的評価(A・B)が81.1%であり、昨年度よりも6.7%高い評価を得ている。児童アンケートから、すべての質問において、昨年度より肯定的評価(A・B)が増加した。8設問中、6設問の肯定的評価(A・B)が85%であった。特に、8「外国語の授業は好きですか。」の設問の増加率が最も高く、昨年度より11.2%の増加であった。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

○25人学級導入など少人数性が効果的と言われニーズが高まってきている。そのことのメリットはもちろん良いが、社会性を遊びながら身につけることが大切だと考えると、壁にぶつかった時に乗り越えられるのか。すべてお膳立てされていて過ぎるような環境だと、一人で考える力が身に付くのが課題である。

○教職員自己評価と児童のあいさつに関する認識は高いが、保護者認識は低い数値を比べると、学校の状況をもっと知ってほしいし、情報共有する必要がある。

○稲作や八幡芋作りを地域の方に協力して行っていることは成果であり、教育の根幹である。さらに、人材活用や取組の幅を広げていく必要がある。

※特記事項

○今回は、PTA役員の出席がなかったのが残念だった。学校を動かす一番の原動力であるので、現役世代の意見を聞きたく、意見交流を行いたい。「できる人ができる時に、できる仕事をしよう」という基本スタンスが良い。評議員やPTA役員がそれぞれの立場や持ち場を活かしていきたい。

○多忙化改善として、学校現場が仕事をすべて背負い込み過ぎずにいく姿勢を大切にしてほしい。

記載責任者（甲斐市立竜王西小学校 学校関係者評価委員）氏名：伊藤 浩 印